

第 1 回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

平成30年8月22日

会議要録

平成 30 年度 第 1 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	平成 30 年度 第 1 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局 (担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	平成 30 年 8 月 22 日 (水) 13:30~15:00	
開催場所	島田市役所 4 階第 3 委員会室	
議題	<協議事項> ・平成 30 年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価、検証 (1) 平成 29 年度実績による評価・検証結果について (2) 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について <意見交換> 島田市の人口動向等について	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市自治会連合会 伊藤会長 ・島田青年会議所 川端理事長 (欠席) ・お母さん業界新聞 静岡版 杉本編集長 ・島田市小中学校 P T A 連絡協議会 富岡会長 (欠席) ・N P O クロスメディア島田 大石理事長 ・島田商工会議所 岩原会頭 ・島田市商工会 岡村会長 ・島田観光協会 大久保会長 ・島田市農業経営振興会 仲田会長 ・静岡県立金谷高等学校 沼里副校長 (代理出席) ・島田市校長会 服部会長 (金谷小学校校長) ・島田信用金庫 三浦理事 ・島田・榛北地区労働者福祉協議会 鈴木会長 ・島田公共職業安定所 井谷所長 ・静岡県立大学 (学生) 大池穂乃佳 (経営情報学部 3 年) ・県立島田樟誠高等学校 (生徒) 北川舞子 (1 年) ・県立島田樟誠高等学校 (生徒) 杉村美桜 (1 年) ・島田市 染谷市長
	オブザーバー	静岡県中部地域局 勝岡次長 (代理出席)
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 駒形課長
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・牛尾副市長 ・濱田教育長 ・鈴木市長戦略部長

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員 ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 ・(資料 1) 平成 29 年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書(案) ・(資料 2) 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂(案)新旧対照表 ・(資料 2 (別紙)) 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂(案)施策の目標(重要業績評価指標(K P I))の修正内容 ・(資料 3) 島田市の人口動向について ・(資料 4) 転入者・転出者アンケート結果について
------	---

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会をさせていただきます島田市市長戦略部長の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。それでは、定刻となりましたので、ただ今から、「平成 30 年度第 1 回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。

それでは、はじめに染谷絹代島田市市長から、御挨拶を申し上げます。染谷市長よりお願いします。

○染谷市長 皆様、こんにちは。市長の染谷でございます。

夏の名残といえますか、夜になると虫の鳴き声も少し聞こえるような頃になってまいりました。

皆様お忙しい中、本日は、第 1 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、今回、静岡県立大学の学生の皆様や島田樟誠高等学校の生徒の皆様をはじめ、新たに構成員となられました皆様に御参画いただき、大変嬉しく思っております。

さて、この会議は、地方創生に向けて官民が一体となり、本市の特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するため、平成 27 年 5 月に設置し、皆様からの御意見をいただきながら、同年 10 月には、「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定いたしました。

この中で、2060 年における島田市の人口目標を 8 万人とし、今後 5 年間の主要な施策等を定め、策定後は、この「人口ビジョン」及び「総合戦略」を基にして、地方創生に向けた取組を実施しております。

さて、国立社会保障・人口問題研究所が、今年の 3 月に、平成 27 年国勢調査に基づき、2045 年までの人口を推計する、「地域別将来推計人口」を公表しました。

前回の平成 22 年国勢調査を基にした推計値と比較しますと、本市は「人口減少」が「減速」しており、高齢化は「加速」しております。

静岡県全体で見ますと、中部、西部地域では、人口減少及び高齢化のペースが減速した又は同水準である一方、伊豆半島や東部地域では、人口減少及び高齢化のペースが共に加速しております。

これらは、あくまで推計値の話ではありますが、人口減少社会に適應していくために、「総合戦略に基づく取組を着実に進めていきたい」と再認識したところであります。

本日の会議では、「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた本市の昨年度の取組について、内部での評価、検証結果を御説明させていただきますので、それについての御意見を頂戴したいと思います。

また、後半には、島田市の転入・転出者を対象に実施しましたアンケート結果等について、情報提供させていただきながら、構成員の皆様の情報交換の場とさせていただきたいと考えております。

本日は将来を担う若い世代の皆様にも御参画いただいておりますので、様々な観点からの御意見や御提言をいただき、有意義なものとなりますよう、皆様のお力添えを賜ることをお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

- 市長戦略部長 ありがとうございます。それでは次第の3、自己紹介に入りたいと思います。新たに本会議の構成員となられた方、また、島田市の地方創生に向け、若い方の意見を積極的に取り入れていきたいと考え、市と包括連携協定を締結しております静岡県立大学の学生及び、島田樟誠高等学校の生徒の方々にも御参画をお願いしておりますので、全ての皆様から御挨拶お願いしたいと思います。
- それでは、最初に事務局（当局）からご挨拶させていただきたいと存じます。染谷市長よろしく申し上げます。

（会議出席者自己紹介）

- 市長戦略部長 ありがとうございます。なお、本会議には、オブザーバーとして静岡県中部地域局の勝岡次長にも御参画いただいておりますので、一言御挨拶をいただきたいと思います。勝岡様よろしく申し上げます。

（静岡県中部支援局）

- オブザーバー 県中部地域局の勝岡と申します。本日は、局長の絹村が、所用がございまして、私が代理出席をさせていただいております。よろしく願いいたします。聞けば、総合戦略は平成27年度10月に策定をしているということで、地域のことを考えていくうえで、この市民会議は、県で言う地域会議のような位置づけであると認識させていただいております。
- 県では、今年度10月17日に地域会議を開催させていただきます。地域の人口減少と総合戦略の進捗状況に加えまして、島田市をはじめ、管内の市町の地方創生の取組を報告していただいたうえで、今後地域課題になっていくところを各界各層担当の方々に御発言いただく予定をしております。県と地域との連携について、引き続きよろしく願いいたします。

- 市長戦略部長 ありがとうございます。それでは、早速、議事に入りたいと思います。議事を進めるにあたりましては、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱第3条に基づきまして、議長を染谷市長にお願いしたいと思います。染谷市長、お願いいたします。

<議事（協議事項）（1）>

- 染谷市長 それでは、しばらくの間議長を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。
- 早速議事に入ります。
- 本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について協議事項が二点ございます。
- まず始めに（1）平成29年度末実績に基づく進捗状況の評価・検証について事務局から説明をお願いします。

- 事務局 **資料1**の説明
市が内部評価として行い、とりまとめた「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書（案）」について、説明した。
- ・島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価・検証（PDCAサイクル）の説明
 - ・評価基準の説明
 - ・内部評価結果に関する説明
 - ・内部評価を踏まえた今後の取組、方向性
- 染谷市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。
- A 構成員 評価書 15 ページに、KPIとして中心市街地一日あたりの歩行者数とあり、しまだ音楽広場のことが記載されているがその利用状況が気になるので、分かれば教えて欲しい。
- 事務局 4月～7月までの利用者数は、7,584人です。
月換算にすると、4か月ですので、1,500人～2,000人ぐらいで推移している、との報告を受けています。
- B 構成員 評価書4ページの表によると「市内総生産額」は上がっているのだが、「1人当たりの市民所得」が上がっていないというのは気になる。
これは1人当たり市民所得が下がっているという見方になるのか。
- 事務局 1人当たり市民所得ですが、県民所得との比率という形で比較をしているものになります。島田市として、1人当たりの市民所得は上がっているが、県と比較した場合は、相対的に下がっている、ということです。
13ページにまとめたものがあり、島田市の1人当たり市民所得は、35市町中、上から23番目になっています。近隣では藤枝市が20番目、焼津市が21番目であり、これを見ると、基本的には志太地域の中で島田市が飛び抜けて低いわけではないが、県と比較すると若干比率として低くなっていると考えられます。
- 市長戦略部長 今、事務局から説明申し上げたことは、13ページの1人当たり市民所得の基本目標の評価の欄に記載させていただいております。
島田市平成24年度は2,823千円、平成29年度は2,873千円で、ほぼ同じ、あるいは若干金額的には上がっている。ただ、県と比較すると差が開いてしまったという状況です。
- A 構成員 13ページの中段、「新規企業件数」とあるが、注目されるのがいわゆる新東名島田金谷インター周辺の交流地域への誘致活動である。この辺りの動きについてはどのような経緯になっているのか。
- 事務局 13ページの「本年度の取組と今後の施策展開」のところに書いてあると思いますが、島田金谷ICの工業用地については、年度末を目途として堤間地

区一工区の企業募集の取組を進めています。

- A 構成員 立地条件としてはインフラを含め、交通網も非常に豊富で中心に位置している、そして水資源も豊富である、ということで、好条件が揃っていると思っているが、その辺り具体的な経緯については言えないのか。
- 牛尾副市長 内陸フロンティアの件について、直接御説明いたします。
堤間地区の上流部、そこを第一番目に手がけています。それから、堤間地区の下流部、次いで牛尾山地区の順に、平成 31 年度、32 年度、33 年度、と誘致を進めていく予定です。
企業からも、当該地に来たいという話は沢山いただいております、先ほどの順番で斡旋できるように、準備をしている状況です。
まだ企業名等はお話できる状況にはございませんが、そこに至る道路整備等も順次進めており、最終的には牛尾山に登る道路も今整備中です。順次成果をあげていけると思います。
- 市長 企業誘致については、第一工区、第二工区、第三工区に区切り順次実施予定で、道路の周辺整備も行っております。後の道路周辺整備につきましても、実施計画の中に取り込んでいる状況ですので、順次進めていきたいと考えています。
- C 構成員 内陸フロンティアという話が出たので、農業経営振興会の担い手の人達も農地集積を非常に頑張っているもの、お茶の価格が非常に低迷したということで苦労しているというのが現状である。お茶だけではお茶農家の人達も大変なので、他の作物へ振り替えようという話も常に話題としてあがってくる。
そんな中で、JA が主体として考えているマルシェの問題があるのではないかと思う。情報がなかなか伝わってきていないので、マルシェの状況をお聞かせいただきたい。
- 牛尾副市長 同じく内陸フロンティアのことですので、説明できる範囲で申し上げます。
まず、インター周辺の賑わい交流拠点ですが、用地買収については皆さんの御協力を順調に得ており、ほぼ目途が立ってまいりました。特に、国道 473 号線より西側の工区については全力でやっていただいております。
東側については、住宅が一部あるため、用地交渉についての調整が必要であり、今しばらく時間がかかりますが、総論で了解いただいている状況です。
また、マルシェの建設等は JA 主体で行い、買収した用地は全て JA に買い取っていただく約束で進めております。
マルシェへの果物や野菜の搬入の仕方等は、JA のノウハウを入れて構築しているので、農協の組合員さんに対しても、順次説明していただける段階になってくると思います。
- C 構成員 JA が主体になるのだが、交流拠点のマルシェについて、市はどの程度の関わりを持って進めていくのか。JA が 100% 受け持つのか、市が何らかの介

入をするのか、というところはどうか。

- 牛尾副市長 基本的には、完成後の運営についてはJAが主体となった新会社を設立して営業そのものを進めていく考えであるとの説明を受けています。ただし、その他の店舗が入るかどうかについては、まだわかっておりません。また、大きな枠組みとして、市も10億円以上の資本を投下して、新東名の高架下に大規模な駐車場を整備するであるとか、国道473号線を跨ぐ歩道橋の建設、周辺の交通状況の改善のための道路整備や排水整備等を計画しています。大きな意味では、JAもかなりの資本をかけていると思いますが、市もそれだけの資本を投下して連携していこうという予定になっております。
- 市長 本年度11億3千万くらいの予算を既につけています。マルシェの設計の詳細が確定してからでないと、歩道橋をつける位置がずれたりしてはいけませんので、そういった意味で、進捗の状況に合わせながらやっていきたいということでございます。高架下の占用許可も既にネクスコからいただいておりますので、こちらを整備をしていただけとなっておりますし、市の方でマルシェ北西側に観光バス等停めていただけるような駐車場を整備するというところで進めています。パートナーとして行政側が請け負う部分はやっていこうという考えです。
- C構成員 農家の人達の大きな期待を背負っていますので、JAの方にも分かる範囲で皆さんに周知するよう提案はしている。市の方においても、また事業に進捗があった際には農業経営振興会に対して報告をしていただけるとありがたいと思うので、よろしくお願ひしたい。
- D構成員 11ページの「希望どおり結婚、妊娠、出産し〜」のところを見て、C評価とD評価が多いなと思い、21ページを見てみたところ、出逢いの場づくりの項目の親婚活というのが、参加者が34組、マッチング13組成立と意外とマッチング率が高いなと思った。もっと婚活関係のイベントの年齢層や対象者を広くして、さらに島田の魅力をアピールし、人を集めて規模を大きくしていけば、婚活を利用して、もっと島田に人が増えると思った。今の年齢層と対象者はどうなっているか。
- 事務局 婚活イベントの細かい年齢層までは把握していませんが、参加者の方は30代40代の方が多いということで聞いています。婚活に出られる方の中には、なかなか人と話すのがあまり上手ではない方がいる、というような話もあり、今年度は、婚活のためのスキルアップセミナーを開催予定です。今後は、出逢いの機会を有効に使い、マッチング率が上がるような取組も進めていかなければならないなと考えています。
- E構成員 出逢いの場づくりの取組について、少し補足をさせていただく。対象者とするとなら男女ともに20歳から40歳までの男女で、男性は島田市在住、在勤で女性はエリアを問わないという形で実行している。毎回応募者は多数あり、抽選をして人を選んでいく状態である。一回の限度はだいたい20人対20人程度で、それより大規模な形は少し難しい。平均年齢はだいたい30

歳、35歳以下が多いかな、という印象を受けている。

出逢いの場については、島田では婚活イベントをやっていることと、今年はスキルアップセミナーで能力を高めること、もう一つ特徴として、シニアの方々が若い人達に情報を提供しお見合いをさせていくというような、おせっかい人サロンという取組があって、それらを連携させながら、イベントで出会えるとか、お見合いのように出会えるとか、包括的に応援していこうという形にしている。

また、出逢いの場はあるのだけど、その後経済的なところ等も含めて、結婚して子供を作っていけるのか、というところがすぐに出産には繋がっていかないと考え、課題としている。その辺りは少し時間がかかるのではないかと思う。

- 市長 ありがとうございました。個人情報の問題もありまして、マッチングまでは把握できるのですが、その後どうなったかということまではなかなか把握できない、ということも御理解いただければと思います。
では、この件について他になければ次に進めさせていただきたいと思います。

<議事（協議事項）（2）>

- 市長 続いて（2）の創生総合戦略の改訂について事務局から説明をお願いいたします。

- 事務局 資料2、資料2（別紙）の説明
市が策定したまち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（案）について、説明した。
・改訂に至るまでの経緯
・改訂内容の概要
・主な改訂箇所 について

- 市長 ありがとうございました。ただいまの説明について、質疑、御意見等はないでしょうか。

- F 構成員 8ページに記載されている多様な体験活動の充実という中で、「子育てをする親たちに求められる「親力（教育力・子育て力）」を養い、高めていく」とあり、とてもありがたく思っている。今は社会教育課でも7月に家庭教育学級というもので親を対象に講演会をやっており、また、就学時健診、入学時説明会にも来ていただいて、親御さんに話をしている。また、親御さんの中でも、子供への関わりというところで悩みを持っている人は非常に多く、それについても把握し、支援に入らせていただいていることはとてもありがたく思っているので、この点については今後も是非お願いしたい。
また、その上に学校教育のことが書いてあり、「各種支援委員」ということで学校教育には非常に人をつけてもらっている。子どもたちに寄り添った学校教育支援員として配置していただくことで、子供の安心・安全、そして評価にも出ていた、「子供が楽しい」というところの数値になっているのではないかと思っているので、こちらも引き続きお願いできればと思う。

- 市長 ありがとうございます。他には、いかがでしょうか。
- G 構成員 私も母親として、家庭教育推進員として関わっている中で、親力というところはさらに高めていくべきところになると思う。
先日NHKで赤ん坊のお母さん達を10人集めて子供の泣き声を聞き分けるというトライをやっており、10人のお母さんが10人ともわが子の声を聞き分けたという実験結果が出ていた。その時に言われたのが、母親になると脳が子育てする脳になり、赤ちゃんの泣き声を聞くと、脳の何十箇所が覚醒されて、それを聞き分けることができる。他人の子どもの泣き声を聞くとときと自分の子どもの泣き声を聞くとときでは、脳の発達した部分の動きが全然違うというのが、実験で出ていた。つまり、お母さんというのはお母さんになった時点で基礎能力は備わっているということである。それが何らかの原因で、能力が落ちてしまったり、引き出せていなかったりというのが問題だと感じている。
学校教育、行政の支援もそうなのだが、地域ぐるみでそういったところをカバーできるような取組を加えていただくと良いのかな、と感じている。
また、一つ質問だが、7ページの具体的な施策の中の「乳幼児期からの健やかな育ちを支えていくため、妊娠・出産期から子育て期までの一貫した」について、前回までは「就学期」となっていて、今回、「子育て期」になったのは、期間が変わったのか、どういう捉え方をしたらよいのか。
- 事務局 資料2の7ページのところの右側に変更という囲みがあると思います。今回の変更については、基本的に上位法である母子保健法の中で、母子健康包括支援センターの設置を位置づけしており、これは妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を行う「子育て世代包括支援センター」の設置を意味するため、『子育て期』という表現に修正した記載しています。上位法の母子保健法で位置付けられていることから今回表現を改正しております。ただし、これが何歳までというのは分かりません、申し訳ありません。
- G 構成員 その後のところに出るのだが、産後うつになってしまうことも問題になっている中で、出産した後からの支援、妊娠した後からの支援がすごく大事にされている。私はお母さん業界新聞の地域版というものをやっているのだが、袋井版を発行しているのは助産師さんでして、マイ助産師制度というものを取り扱っている。妊娠したら、出産して、その後自分のパートナーとして寄り添ってくれる人が居る、それがすごく心の支えになっているのだと思うので、是非そんなマイ助産師制度みたいなものも含めてやっていただくとありがたい。
- 市長 ありがとうございます。島田市は、保健福祉センターはなみずきの2階に「包括支援センターてくてく」を設置していただき、マイ支援センターという形でそれぞれの方に寄り添う保育士、保健師等の紹介をさせていただいています。子どもが生まれる前から、妊娠が分かったときからの支援ということで実施しております。
- G 構成員 そこに上手く助産師さんが参加されると良いかなと思う。私も支援センター

によく行くのだが、なかなかそこにいらっしやっているお母さんと出会わないので、そこに行く第一歩になるかな、と。

○市長 ありがとうございます。保健師の数もあり、年間に750人は新しい赤ちゃんが生まれていますので、それをそれぞれの担当に、ということであると保健師の不足もあるのかなと思います。御意見として伺わせていただきます。他にはいかがでしょうか。

○A 構成員 新旧対照表の4ページ、5ページのことでお尋ねする。
4ページにはICTのことについて書かれている。私もICTコンソーシアムの立ち上げに携わっているのだが、なかなか島田市のICTの取組が企業まで届いていないのではと感じている。もう少し情報発信をして、周知に力を入れて行って欲しい。島田市、また藤枝市と一緒に参画してやっているものもあり、そういったことがもう少し届くようなことが必要なのではないかと、というのが一点。
そして5ページにリノベーションのことが記載されている。ここでも支援をしていくということなのだが、リノベーションにより価値を高めるために、補助金とかそういった支援が今後出てくる予定はあるのか。

○事務局 一点目のICTの関係についてです。おっしゃるとおり、ICTというものが中小企業まで届いていない、情報発信が届いていないというのは私達も感じているところなので、そこは少し今後強化していきたいと考えております。今、ICTコンソーシアムの事業の中で、事業者さんに公募をかけるような事業も行っております。それで6月に3件ほど事業を受けたものもあります。今後もICTというものの利活用を進めていけるよう、市内の中小企業の方への情報発信や、事業を進めていきたいと考えています。
もう一点リノベーションの関係です。御質問いただいたリノベーションのための施策については、現在検討をしている段階です。この秋、あるいは10月にも来年度の方向性として、お示しし情報提供をさせていただきたいと思っております。

○市長 現在検討している最中ですので、また公表できる日を待っていただけたらと思います。他にはいかがでしょうか。

○C 構成員 2ページの茶の生産基盤の強化と消費拡大という中で、茶草場農法という言葉が出ています。お茶の振興に結びつくということで、世界遺産というものがどういうものか、茶草場農法というものはどういうものか、そして島田市は世界農業遺産である茶草場農法を推進しているのである、というところを子どもたちに教えていただきたい、と思う。農業を営んでいる、あるいは親戚が農家だという子どもだけではなくて、お茶に関係していない子どもにも、私達が住んでいる島田市というのはお茶の街なんだよというところを、小学生、中学生、義務教育の中で知ってもらって、将来大学に行ったときにもお茶というものを常に思っていたいただければ嬉しいと思う。教育の現場で世界農業遺産の茶草場農法というものを教えたり、アピールしたりしていただけたら、と思うのだが、いかがか。

○教育長 教育委員会から少しお話をさせていただきます。今おっしゃったことについては十分に理解をしております。市内の全ての学校で、淹れ方、栽培法、体験等お茶に関わる授業は必ずやっております。その中で、茶草場農法について、特段指導しているがというところについて、今は資料がないのですが、その点についても各学校で少し手厚い指導をしていくように働きかけをしていきたいと思います。

○市長 よろしく申し上げます。それでは、時間が押していますので引き続き意見のある方については担当課に直接お話をさせていただければと思います。委員の皆様からいただきました多くの御意見につきましては、担当課にて取りまとめた上で、今回の評価・検証結果とともに報告書として作成し、市議会へ報告させていただきます。また、庁内での情報共有を図り、今後の事業及び次年度の予算編成等に活かしていき、この総合戦略の評価・検証作業を実効性のあるものとしていきたいと思います。

<意見交換>

○染谷市長 では、続きまして、次第の5「意見交換」に移りますが、今回は、「島田市の人口動向等について」というテーマを設けさせていただきました。はじめに、事務局から資料3「平成29年の島田市の人口動向について」及び、資料4「転入・転出者アンケート結果について」を御説明させていただきます。その後、皆様と意見交換をさせていただきたいと思いますが、報告に対する感想、御提案等、自由な意見交換の時間としますので、積極的なご発言をお願い致します。それでは、まず、事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料3、資料4の説明を行った。
資料3 島田市人口動向について
資料4 転入者・転出者アンケート結果について

○染谷市長 それでは、ここからは、意見交換の時間としたいと思います。今の説明に対する御意見、御感想及び御提案等、なんでも構いませんので、自由に御発言ください。

○H構成員 人口が2060年に6万人ということで、現在からおよそ2万人も減るといふ。この最たる減少原因として、やはり、若者の転出、島田市外への流出、これが一番主ではないかと考えられる。そこで、若者の転出をいかに抑えるか、また、よそからの若者をいかに取り込むか、これが今後有用なのではないか。そうすると、島田市内に大学や専門学校等、若者が島田に来られるような環境、場所、教育機関を取り入れることが必要と考える。私の覚えでは、静岡県下、東海道沿線で大学の誘致がないところは、熱海と島田と湖西の三市のみではないかと思う。他の東海道沿線の市では必ず大学があるということで活性化を目指しているようだが、島田市にはない。これを何とか誘致して若者に来てもらう、そして若者に島田市で就職してもらう。若者の入りを多く

し、出を食い止める、こういう方策も一つの方法ではないかと思っている。
この辺りを今後市の事業の考え方の一つに入れていただければと思う。

- 市長 ありがとうございます。若者の流出ということもありますし、また、出生数が減ってくるということも減少原因であると思います。新たな大学の設置というのは、文科省も厳しい状況の中でございます。しかし、島田は5つも高校がありますので、このことも活かしながら今後活かして参りたいと思います。他にはいかがでしょうか。
- I 構成員 若者の県外流出が多いと言っていたのですが、私は今高校生で、先輩でも卒業生で北は北海道、南は九州まで自分の学びたい学問がある大学へ行くため、地方まで行く。日本全国を視野に入れて決めているので、島田とか静岡とか、その魅力みたいなものをもっと学生に知ってもらえば、たくさん学生は来ると思うので、そういうものをもっと推進していけば良いのかなと思う。
- 市長 ありがとうございます。地域の魅力というものを作っていくのがまず大事じゃないか、ということですね。
- J 構成員 10代20代の転出が多いというところですが、都市部に集中していると思うので、地方においては大方がそのような状況ではないかと思う。ただ、30歳～44歳では転入超過ということで、これは非常に良いことだな、と思う。まち・ひと・しごと地方創生ということだが、仕事があつて人が集まる、人が集まって街ができる。今その中においては、やはり商工会議所の立場というのが非常に重いかな、と。事業先の繁栄、活性化、それをしっかり商工会議所としては対応していく必要があるなと感じている。今は設備投資も補助金や税金面での優遇があるので、この活動によって競争力の強化や新分野への新たな取組を計っていき、雇用の創設に取り組んでいくということが非常に肝心かと思う。これからもしっかりとした対応をしていかななくてはならないというように思う。
- 市長 ありがとうございます。雇用があつてこそ街は賑わい人が集まると。事業所の活性化ということに共に力を入れて参りたいと思います。
- K 構成員 冒頭から思っていたのだが、初めにもあったとおり、私達の立場としては、市民所得が県内で23番目ということが気になっている。市内総生産は上がっているのに所得が上がらないのはなぜなのか。稼ぐ街をつくらなければ経済は発展しないというようだが、やはり家族の中で稼ぎが無ければその街に住まないというのは当然のことだと思う。ここはもう少し掘り下げて、どういう内容なのかというのをしっかり調査したほうがいいのではないかな。また、働き手は居ないようで居ると思う。ただマッチングが上手くできてないなというのはすごく思っている。わが社でも年中求人を出しているのだが、来てもなかなか雇用に至らない、働いても続かない、ということもある。やりたい事とできる事は違うと思うので、それについて、何をやりたいのか、ということだけではなく、人の質（仕事の内容によっては向き不向きがある）を見て振り分けていただくのも一つマッチングの材料になるので

はないか。また、紹介だけでは成り立たず、企業側もなるべく良い人材が欲しいというのが現状であるという中で、子育て世代や、シニア世代という社会と離れた人にスキルを付けてあげるスキル研修を強化していけばマッチングもしやすくなると思う。良い人材が来れば稼げる、そしてそういった良い人材にはたくさんお金が払われる、という正の連鎖が生まれる。マッチングというところを強化し、スキルアップ研修という機会を作っていただく、そして、もう少しアンケートについて掘り下げて調査して、企業に情報提供していただいて利用させてもらいたい。そして今の市の状況がこういうものなのだというのを広く知ってもらうところが始まりになるのではと感じた。

○市長 市民の1人当たりの所得と市内総生産額については統計上のデータに基づいて出しているものです。しかしこのような数値が出たのは何故か。企業が儲かっているのに給料は上がっていないということです。そこは私も知りたいと思っております。雇用のマッチング等も含め、島田公共職業安定所さんはいかがですか。

○L 構成員 マッチングというような職業紹介をしているのだが、この人は無理かな、と思う方でも紹介をせざるを得ないということがある。その辺りは、企業側の選考で判断していただきたい。最近の雇用の状況については、静岡県の有効求人倍率は1.72倍であり、全国の1.62倍を上回る数値となっている。これは非常に深刻な状況ということであり、ハローワークとしても様々な対応をしているところだが、島田市、牧之原市、川根本町、吉田町の2市2町をとりまとめているハローワーク島田においては、有効求人倍率は1.15倍であり、県下の1.72倍と比べるとかなり隔たりがある。さらに、ハローワークでは榛原出張所を持っており、本所管轄の島田市、川根本町の求人倍率だけを見ると、0.95倍ということで、簡単にいうと、人は居るけど仕事がないという現状だと思う。すると、島田の企業は人がいっぱいいて良いじゃないか、という話になるようだが、仕事を探している人の向いている方向は地元ではなく、色々な仕事のある藤枝や静岡が非常に多くなっている。私は島田市民になってまだ5か月足らずだが、自然も豊かで住みやすい地域だなと強く感じる反面、買い物等をするのには少し不便だなとも感じる。そういった色々なニーズに対応したまちづくりが必要なのかな、と。総合戦略では、13ページの地域産業の振興ということで「創業意欲のある女性、若者、シニアの創業活動を支援する。また、女性が活躍できる仕事の創出や、若者、障害のある人の就労、高齢者の再就職など、誰もが活躍できる就業環境の形成を支援する。」とあり、この辺りは大変期待をしているので、よろしくお願ひしたい。

○M 構成員 私はいつも、島田は遊ぶ場所がないな、と思っている。私も遊びに行くというときは静岡の方に行ってしまうので、島田にも遊ぶ場所があったらいいなと思う。

○市長 ありがとうございます。
時間がきてしまいましたので、最後にどうしてもこれだけはという方がいましたらお聞かせいただきたいと思います。

- C構成員 次第について、次回の平成31年の開催は3月19日（木）と書いてあるが、これは火曜日の間違いか。
- 事務局 申し訳ありません。今回は3月19日の火曜日です。
- 市長 まだまだ、御意見は尽きないかと思いますが、予定の時間となりましたので、本日はここで終了したいと思います。
皆様からいただいた御意見の中で、すぐに事業に活かすことができる内容については、各担当課へ伝え、検討させていただきます。
それ以外の意見についても、庁内で情報を共有し、今後の事業に活かしていきたいと思います。
皆様のご協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。それでは、会議の進行を事務局へ戻します。
- 市長戦略部長 ありがとうございました。
貴重な御意見を伺いまして、活用させていただきたいと思います。
最後に、次回、市民会議の予定ですが、平成31年3月19日（火）午後1時30分から、この会場での開催を予定しております。
委員の皆様には、近くなりましたら、改めて御連絡をさせていただきます。
それでは、以上をもちまして「平成30年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。
本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございました。
お気をつけてお帰りください。

以上